

二〇二六年度 大阪公立大学個別学力検査（一般選抜 前期日程）
国語「出題の意図・解答例」

第一問

第一問は、導入として、問題文中で言及される三種類の時間のうち、最初に説明される「感覚的な時間」について、的確に把握できているかを問う。

問二は、問題文で中心となる「精神的時間」について、筆者の説明を理解しているかを問う。定義を問う(1)では、前問もふまえて、「感覚的時間」「身体的時間」と比較しつつ的確に解答することが求められる。「精神的時間」の特徴を問う(2)では、「精神的時間」がどのような時に認識されるのかを考えて、その特徴を示すことが求められる。

問三は、問二をふまえ、「精神的時間」の特徴である、自分でも意識しない間に起きている啓示的な内面の変化について、筆者の考えと、引用された森自身の文章に含まれている比喩を正しく理解し説明できるかを問う。

問四は、森の思想を筆者なりに解釈したうえでの問題文の論旨を、正しく理解できているかを問う。「固有の時間」「普遍的な時間」という、一見して矛盾する二つの時間が同時に存在することを、それぞれの時間について丁寧に説明しながら解答することが求められる。

第二問

問一〈解答例〉 a 否 b 都度 c 呪

問二〈解答例〉それだけでなく

問三〈解答例〉主語

問四は、本文の内容理解の入り口として、「理解」と「了解」の相違が把握できているかを問う問題。

問五は、本文は鍵概念として「自己の経験」「自己了解」「自己愛」における「二重性」「三重構造」ということが詳述されている。そのうち、「自己の経験」と「自己了解」における「二重性」の内部構造が把握できているかを問う問題。

問六は、「必要条件」「十分条件」という基礎的な概念が理解できているか、本文の内容に即して説明を求める問題。

問七は、「自愛」と「他愛」はどのように共通し、どのように相違するか、本文全体の論旨が理解できているか、過不足なくまとめることを求める問題。

第三問 (A)

問一は、基本的な語彙の理解を確認するための問い。

問二は、「ながき世」が来世を、「仮の宿り」が現世を、それぞれ意味していることを理解した上で、それ相当の語を見出すことができるかを問う。

問三は、傍線部の前後の「この身を惜しむにはあらざりければ」「里に出でて物を乞ふわざも侍らず」という叙述から主人公の考えを推定させる問い。

問四は、「処分押し取りける人」のもとに主人公の情報が伝わったことから傍線部の意味するところを判断させる問い。

問五は、基本的な語法が理解できているかを問う。

問六は、「よしなく人にさまたげをなさ」れた場合、世間一般の人だったら「さまたげをなした人のことを神仏にどのように祈ると語り手が述べているか理解できているかを問う。

問七は、「先づ申す所をかなへ給はで」以下の文章で述べられている趣旨が理解できているかどうかを問う。

第三問 (B)

問一は、傍線部より前の部分の内容を正しく読み取ることができているかを問う設問。

問二は、適切な語句を抜き出すことができるかどうかを問う、文章後半部分を読み解く前提について理解しているかを問う設問。

問三 (1) (解答例) 細しと雖も能く貞心を守る

※基本的な句法の知識を問う。

(2) は、傍線部について出典をふまえて説明させることによって、ここに述べられている考え方をとらえられているかを問う設問。

問四は、傍線部について説明させることによって、文章全体の内容を正しく読み取ることができているかどうかを問う設問。